

茨城大学学報

第260号

平成17年4月～平成17年5月

INDEX

- ◆ 平成17年度茨城大学入学式
- ◆ 人文学部が2市町と地域連携協定締結
- ◆ 工学部が「SCOPE計画」を発表
- ◆ 中山文部科学大臣が教育学部附属小学校・附属中学校を訪問
- ◆ 環境リサーチラボラトリー棟・放送大学茨城学習センター合築棟竣工記念式典を開催
- ◆ 米国立標準・技術研究所(NIST)が本学で開発された認証コードを採用
- ◆ 中高生向け科学セミナー「本気でやればおもしろい基礎科学」を開催
- ◆ 工学部で実習工場安全・技能講習会を開催
- ◆ 「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより4月号
- ◆ 「NHK県域デジタルTV放送」茨大たすくフォースだより5月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

平成17年度茨城大学入学式

平成17年度入学式は、4月8日（金）午前10時から茨城県武道館において、学長、理事・副学長、監事、評議員等の参列のもとに挙行されました。

式は、入学生とその保護者らが出席し、会場が満席のなか本学吹奏楽団による国家吹奏に始まり、続いて菊池学長から学部、大学院及び専攻科の入学生と各学部編入学生の合計2,392名に対する入学許可、式辞、部局長等の紹介がありました。さらに、全学総代荒川紗織さん（教育学部）の宣誓、各学部等総代の宣誓書提出ののち、参列者全員で校歌を斉唱して閉会となりました。



茨城大学入学式

◇学長式辞

茨城大学長 菊池 龍三郎

入学生のみなさん。茨城大学入学本当におめでとうございます。本学を代表して心からお祝いを申し上げます。あたたかも季節がみなさんの入学を祝うかのように、桜花爛漫と咲き誇る今日この日に、平成十七年度入学式を挙行し、みなさんを茨城大学にお迎えすることに私たち教職員一同心から慶んでおります。

ご承知のように、茨城大学は、今年で創立五六周年を迎えます。五つの学部と各分野の研究センター等を擁する本学は、教育と研究に関する優れたスタッフを多数擁し、国立大学の長所である少人数教育などによって、入学されたみなさんの期待に必ずや応えることができると思います。

さて、入学式に当たり、みなさんにいくつか励ましと期待の言葉を贈りたいと思います。

みなさんが誕生したのは、日本がまだバブルを謳歌していた時でした。しかし今から十数年前、日本経済は突如としてバブル経済が終わりを告げると、長い混乱と停滞の時代に入りました。最近やっと少し光が見え始めてきたとは言え、それでも日本経済の先行きは予断を許さない状況にあります。

この十数年の間に日本社会は大きく変わりました。お金や情報がインターネットなどで世界中を瞬時に移動する時代に入り、今や日本の国内だけで通用する物差しはほとんど役に立たなくなりました。グローバル化が進み、私たちは世界的なレベルでものを考えたり行動する必要が出てきています。つまり、今や産業から教育に至るまでの様々な分野に、新しく「世界的な基準」という物差しが入ってきたのです。このグローバル化する時代を支配するのは、「競争」や「実力」です。私たちの大学教育においても、みなさんにこの厳しい社会を生きていくための「実力」をどう身に着けて貰うかということに関して、大学同士の競争が激しくなってきました。

学長式辞



これまで日本社会のあらゆるところで支配してきたルールや慣行は今や急速に失われつつあります。規制緩和という言葉は知っていると思います。郵政民営化に端的に示されているように、政府や地方自治体など行政が独占的に抱えていた多くの責任や業務は、それをむしろ民間に任せた方がいいという方向に変わりつつあります。ここに見られるのは、これまでのような「大きな政府」の思想ではなくて、それに代わって「小さな政府」を目指すという変化であります。今進んでいる平成の市町村合併も同じく「小さな政府」の考え方に立っています。そういう大きな変化の流れがあり、日本社会を根底から変えつつあることをしっかり認識しながら、これからは学業に励んでほしいと思います。

現在の日本では国もそうですが、特に地域社会は様々な課題を抱えています。日本の地域社会をどう立て直すか、私たちの茨城大学も、地域に生き、地域によって支えられ、また地域から頼られる大学として、深刻化する過疎問題や地域経済の不振という問題に私たちの持っている研究や経験の蓄積を積極的に役立てようとしています。その場合、地域は教職員の参加だけでなく、色々な形で学生のみなさんの参加をも期待しています。ポラン

ティアとしての参加だけではありません。先日、本学の工学部を卒業した学生が四年次の時、ソフトウェア関係の会社をつくり、学生社長になって話題になりました。これなどは、自分がインターフェースとなって自分の学習と社会のニーズをうまく繋ぎ、それをもとに事業を興したという例であります。これからみなさんは、自分たちの学習を通して、大学と地域を結びつけるインターフェースとしての役割も大いに期待されてきております。

一方で、目を世界に転ずれば、今世界は、貧困だけでなく相次ぐ内戦や紛争、解決の見えない様々な対立を抱えています。そのような現状に誰もが心を痛み、自分たちにできることは何かないかと考えています。

また近年の異常気象が示す地球温暖化は、今や誰もが無関心ではいられない深刻な問題です。人口増、食糧難、環境破壊も進んでおります。このままで行くと日本もまもなく亜熱帯的な気候になり、新しい伝染病の蔓延も危惧されるとのことです。地球規模で進む環境破壊に私たちはどう取り組むべきか、私たちには限りある資源や環境をできるだけ大事に使いながら、この世界の均衡の取れた発展を可能にしていくこと、いわゆる「持続可能な社会」をどう実現できるかが重要な課題の一つとなっております。みなさんは、こういう方向や課題に対しても是非関心や問題意識を持ち、学習の照準をこれに合わせて下さい。

今、我が国でも大学は、様々な課題の解決に積極的に貢献をしております。いわゆる社会貢献です。茨城大学はこれにも積極的に貢献しその存在をアピールしています。たとえば、昨年末津波による未曾有の災害をもたらしたスマトラ沖地震の時には、広域水圏環境科学教育研究センターや大学院理工学研究科を中心とする専門の先生方による調査団が早速に現地に入り、緊急国際調査の一翼を担いました。また、先生方と学生たちがアジアの被災地からの留学生を招いて報告会や被災者を追悼する会を開くなど、本学ならではの国際貢献、社会貢献を活発に展開しております。入学後は、本学が広く世界や社会に向けて発信している様々な活動にも関心を持って戴き、是非参加してみてください。

みなさんには、これからは、「新しい知性」を身に着けることが期待されていると考えます。みなさんに期待される「新しい知性」は、「公共性への高い関心」と、「世界の多様性と統合性への理解」と、「人間というものへの深い共感」をもって、これからの学習に努力する中で身に着くものであります。是非、世界の国々、あるいはわたしたちの社会が抱えている様々な問題や課題に十分な関心を持ち、しっかりと照準を合わせた学習をして下さい。

当然、大学生に期待される資質や能力も変わってきています。たとえば、これからは外国語、なかでも国際共通語としての英語の力は必須です。本学は社会に出てから役立つ英

語の基礎を身に着けて貰うために、全学的に「総合英語プログラム」を実施しております。是非新入生のみなさんには卒業後のことを考えて、しっかりと学んで下さい。今年度からは、交流協定校であるアメリカのイースタン・ワシントン大学等への短期の語学研修も始まります。

要するに、茨城大学はみなさんに、積極的に色々自分探しを試みてほしいと願っているのです。なぜならば、大学教育とは、みなさんが自分に一番合うものは何かを探し求める「自分探し」の旅をするところだからです。

これからすぐに始まる教養教育は、人類の智慧の宝庫の入口にみなさんを導いてくれるものです。これを学ぶ中でみなさんは、自分とは、人間とは何か、人間や社会はどこに向かおうとしているのかをしっかりと考えてみて下さい。

教養教育に続いて、勿論、専門教育には最大限努力し、社会に自信を持って出ていける高い専門の能力を身に着けて下さい。本学ではこれまで以上に専門教育については工夫したプログラムを用意し、質の高い教育を提供することでみなさんの意欲に応えたいと思います。

社会性やコミュニケーション能力もますます必要になります。インターンシップも体験してみてください。困ったことがあっても、悩むことがあっても絶対にひとりぼっちだと思わないで下さい。友人同士の交友は勿論のこと、積極的に先生方の研究室を訪ねたり、困ったことがあったら事務スタッフにも遠慮なく相談してみてください。「なんでも相談室」もあります。保健管理センターもみなさんの悩みや辛いことをしっかりと受け止めます。安心して充実した大学生活を送って下さい。何よりも、心を許し合える友人をつくって下さい。授業を受ける中で知り合った友人でもいいし、課外活動を通して得た友人でもいいのです。お互いに刺激し合えるいい友人ができれば、それだけで大学生活は半分成功です。

それから健康には十分に気を付けて戴きたいと思います。生活全体のサイクルやリズムを学習を中心として組み立てて下さい。大学生活は、自由度が増す代わりにみなさんには自己管理の努力と能力が求められます。いずれ社会に出て行ってからみなさんはこの自己管理能力があるかないかを験されるからです。

さらに、保護者の皆さま方にも一言ご挨拶を申し上げたいと思います。本日はお子さんのご入学に心からお祝いを申し上げます。私たちの茨城大学は、学生に「厳しく、かつ丁寧な教育する大学」を目指しております。法人化後の国立大学は運営が大変難しくなりましたが、私たち教職員一同最大限の努力をして入学生のみなさんに「茨城大学に入ってよかった」「茨城大学で学んでよかった」と評価して貰える大学を目指しております。どうぞ、

安心してお子さんを見守り励まして戴きたいと思います。

なお、保護者の皆さま方には、今後可能な限り教育研究助成会にご入会戴き、本学を物心両面からご支援戴ければと思います。本日は会長さんにもお出で戴いておりますが、今後とも是非ともご支援、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

最後に新入生のみなさん、改めて入学おめでとう。これからのみなさんの努力と活躍に心からの期待を申し上げて式辞といたします。



新入生の皆さん

人文学部が2市町と地域連携協定締結

人文学部では、4月13日(水)、茨城大学を会場に常陸大宮市、大洗町とそれぞれ地域連携に関する協定を結びました。

調印式では、田中人文学部長が「学生の教育を第一目標にすると共に、地域の活性化に支援・協力することによる教育への波及効果につなげたい」と抱負を述べられました。

また、常陸大宮市長は「高齢化、過疎化など課題が多く大学の知恵を借りたい」、大洗町長は「ハード、ソフト両面で連携し、きらりと光るまちづくりを目指したい」とそれぞれ抱負を述べられました。

調印式終了後、文理学部(現人文学部)卒業生の常陸大宮市長が協定調印を記念して講演、100余名の学生・教職員が出席し、活発な質問等があり、講演会は盛況裏に終了しました。



協定を結んだ、右から小谷大洗町長、田中人文学部長、矢数常陸大宮市長

工学部が「SCOPE計画」を発表

本学工学部では、4月15日（金）、生活の質の向上を目指した多角的連携のプロジェクト「SCOPE計画」を発表しました。

この計画は、大学の学部・学科を超えた研究、地域などとの連携により、新ものづくり創成やライフサポートなど5つのプロジェクトから構成されています。

柱となるプロジェクトは、①新ものづくり創成、②ライフサポートサイエンス、③地球規模で社会の安全・安心を保障、④高品質エネルギー創成、⑤情報ネットワークで、教職員約130人が参画しています。

狙いとして、社会に向けては、①社会が求める新しい研究分野の形成、②工学部の研究特色のアピール、③高校生自由参加型への道、④地域連携推進の強化など、また、学部内での取り組みとしては、①横断的研究の活性化、②研究コアの形成、③組織的な外部資金の獲得などを掲げています。



プロジェクトを説明する前川工学部副学部長

中山文部科学大臣が教育学部附属小学校、附属中学校を訪問

文部科学大臣のスクールミーティングが去る4月21日(木)に茨城大学教育学部附属小学校と附属中学校で実施されました。

スクールミーティングは、教育現場における実際の取組を大臣、副大臣、政務官及び文部科学省職員自身の目で見、教職員、児童生徒、保護者などの意見を直接聴くことにより、国民の期待にこたえる確かな教育改革を推進するため開催されるものです。

当日は、中山文部科学大臣、山中官房審議官らが訪れ、附属小学校では教員と活発な意見交換の後、6年生の児童と給食を一緒に食べながら和やかに懇談が行われました。

附属中学校では1年生、2年生及び3年生計20名の生徒と懇談の後、教員と総合的な学習の問題等について、活発な意見交換が行われました。



小学校で児童と一緒に給食を食べる中山文部科学大臣

中学校で生徒と熱心に懇談する
中山文部科学大臣



茨城大学環境リサーチラボラトリー棟・放送大学茨城学習センター 合築棟竣工記念式典を開催

本学では、4月26日(火)、「茨城大学環境リサーチラボラトリー棟・放送大学茨城学習センター合築棟竣工記念式典」が、文部科学省や県内の大学、県内市町村等関係者約150名が出席し、合築棟正面玄関及び3階講義室等で行われました。

正面玄関でのテープカットから始まり、記念式典では、はじめに菊池学長から「様々な環境問題の研究に関して、学内だけでなく学外をも取り込んだ戦略的な研究の取り組みが一気に進む」と期待の言葉が述べられ、続いて井上放送大学学園理事長、藤田文部科学省大臣官房審議官(生涯学習政策局担当)らの祝辞がありました。次に施設の紹介及び見学の後、茨苑会館において祝賀会が行われ、川俣茨城県教育長らの祝辞があり、盛大に行われました。

合築棟は3階建てで、1階の茨城大学環境リサーチラボラトリー棟に環境情報解析室を置き地球環境問題に関する情報収集・解析、測定・実験などが行われます。また展示コーナー(OAフロア)では情報教育が行われます。

2階には、放送大学茨城学習センターの事務室・視聴学習室・図書室、3階には同センターの講義室等が置かれ、前施設の約4倍となるスペースとなります。

同施設は、今後、本学を中心として広く環境研究の推進の拠点として、また両大学の利点を生かした教育・研究活動及び生涯学習の拠点としての役割を目指しています。



正面玄関でのテープカット



環境リサーチラボラトリー棟

米国立標準・技術研究所（NIST）が本学で開発された認証コードを採用

米国立標準・技術研究所（NIST）は、5月19日（木）までに、工学部情報工学科黒沢馨教授と同学科岩田哲助手の開発したメッセージ認証方式CMAC（シーマック）を推奨方式として採用した、と発表しました。

これは、NISTにより採用された日本人による初の情報セキュリティ技術です。

NISTの公募に対し、米国、フランスなどから提案された計6つの方式の中から、同グループが開発したOMACが選ばれ、NISTはそれをCMACと命名し、使用します。

この選考プロセスは全てオープンであり、世界中の暗号研究者から信頼を勝ち得ているとあって過言ではありません。

CMACは、今後、インターネット通信や携帯電話等における電子データの改ざん防止、あるいはDVDソフトの違法コピー防止等に広く使われ、米国にとどまらず、事実上の世界標準になると考えられます。

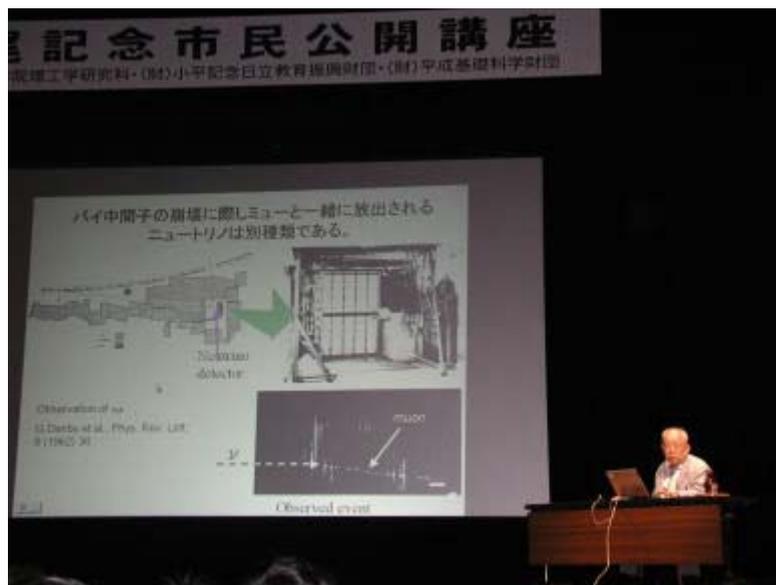
この成果は、茨城大学における情報セキュリティに関する研究が世界のトップレベルにあることを証明しています。

中高生向け科学セミナー「本気でやればおもしろい基礎科学」を開催

平成17年5月28日(土)に日立市民会館において、茨城大学大学院理工学研究科、(財)小平記念日立教育振興財団及び(財)平成基礎科学財団の共催による高尾記念市民公開講座 中高生向け科学セミナー「本気でやればおもしろい基礎科学」が開催されました。

講師には、東京大学・東北大学名誉教授の武田 暁先生とノーベル物理学賞を受賞された東京大学特別栄誉教授の小柴昌俊先生のお二人を招き、「学習する脳の不思議」「ニュートリノを捉える」のタイトルでそれぞれ講演いただきました。

会場には、小学生、中学生、高校生、大学生、大学院生、一般社会人など1000名を超える観客が集まり、終始熱心に聞き入り、講演終了後に高校生が講師にサインを求める場面もありました。それぞれ45分の講演時間でしたが講師の先生も講演に熱が入り時間をオーバーする程講演会は盛況でありました。



熱演する小柴栄誉教授

工学部で実習工場安全・技能講習会を開催

工学部で、5月31日(火)、平成17年度第一回工学部実習工場安全・技能講習会が開催されました。

この講習会は、本学の教職員及び学生のうち実習工場利用者を対象に行うもので、工作機械の使用に不慣れな者が、安全に事故無く実習工場を利用できるよう昨年度から行っているものです。今回は、教職員3名と学生55名の合計58名が受講し、実習工場を利用する上での最低限のルールと工作機械を安全に使うためのポイントの説明を受けたあと、作業服に着替え、実際の工作機械の動きについての説明を受けました。

本講習を終了した者には、「実習工場使用ライセンス」が発行されて実習工場の利用が可能となります。本講習の受講者が今後の研究に必要な物を自分たちで加工し、研究に役立てていただくだけでなく、物作りの楽しさを実感していけることがこの講習の目的でもあります。

なお、第二回講習会は6月17日(金)に開催されます。



実習工場で工作機械の説明を受ける受講者の皆さん

—「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより 4月号—

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「わいわいデジタル便り」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成16年10月からこれまでの、本学学生の映像作品及び企画・編集者は次のとおりです。

10月14日(木)・・・留学生サイフルくんの1日(人文学部3年次齋藤さん)

11月11日(木)・・・工学部人間情報工学研究室の紹介(理工学研究科2年次今枝さん)

12月 9日(木)・・・手で描く映画の世界－茨城たった一人の看板絵師－(人文学部3年次山口さん)

平成17年1月13日(木)・・・茨城大学放送研究会の活動の紹介(人文学部1年次森島さん)

2月10日(木)・・・担ぎ屋の男達－祭りというコミュニケーション－(人文学部2年次椎名さん)

3月10日(木)・・・茨城大学の授業について (教育学部4年次上岡さん)

4月 7日(木)・・・茨城大学自主映画制作の会の活動紹介(工学部3年次西澤さん)



写真は
自主映画制作の会の皆さん

- ・手紙(天野さん制作)
- ・モンスターシアター
(高橋、照沼さん制作)

2作品を紹介しました。

NHK水戸放送局公開スタジオにて:

左から小田切アナウンサー、天野さん、西澤さん、加藤さん、高橋さん、照沼さん

NHKでは、地元にある大学の学生の自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。 皆様のご協力をお願いいたします。

※デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

—「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより 5月号—

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「わいわいデジタル便り」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成17年5月12日(木)・・・茨城大学教育学部「梅が丘小・英会話ボランティア」の活動紹介
(教育学部4年次高波さん)

水戸市の公立幼稚園、小学校、中学校が英会話特区になり、英語教育が積極的に行われ始めていること。その中で、茨城大学教育学部の英語教師を目指している学生たちが、ボランティアで小学校に入り、授業のお手伝いをしていること、などを紹介しました。



写真の中央から右側は
教育学部
英語教育講座の皆さんと
梅が丘小学校の皆さんです

NHK水戸放送局公開スタジオにて:

高波さん、矢幡さん、清さん、猪野さん、岩村さん、井上さん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

※デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。